

## 今月のみことば 2026年7月

イエスは彼女に言われた。「娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。苦しむことなく、健やかでいなさい。」 (マルコの福音書 5章34節)

### 「もうだめだ」と思ったときに

人生の中で、「もうどうにもならない」と感じる瞬間があります。不調が長く続くとき、人間関係が壊れてしまったとき、大切な人を失いそうなとき。努力しても状況が変わらず、希望が消えていくことがあります。聖書の中のマルコの福音書5章には、そのような人の姿が描かれています。

そこには、長い間苦しみに縛られていた女性が登場します。彼女は十二年間も病に悩み、多くの医者にかかりましたが良くなりませんでした。お金も失い、希望も失いかけていました。しかし彼女は、イエスという人物のことを聞き、「この方なら何かを変えられるかもしれない」と思います。そして群衆の中をかき分け、そっとイエスの衣に触れました。すると、驚いたことに、たちどころに病気は治った、と聖書は記録しています。

イエスは、この女性にどんな言葉を向けたのでしょうか。「あなたの信仰があなたを救った」と語りかけたのです。

ここでいう「信仰」とは、難しい宗教的知識や、修行の果てに到達する悟りのことではありません。ただ、「もしかしたら希望があるかもしれない」と手を伸ばすことです。この女性は、打ちひしがれ、心身ともにやつれ果てていたことでしょう。周りの健康な人から見れば、あまり近づきたくないな、と感じる相手だったかもしれません。それでも、イエスは、このような人々を退けませんでした。むしろ、希望を失いかけた人々のそばに立たれたのです。



現代を生きる私たちも、同じではないでしょうか。誰もが心のどこかに、人には見せない痛みや不安を抱えています。表面上は元気に見えても、本当は助けを求めているかもしれません。マルコの福音書5章が伝えるのは、「強い人になりなさい」というのではなく、「絶望の中でも、希望へ向かって手を伸ばしてよい」というメッセージです。イエスは、立派な人だけのために来られたわけではありません。そうではなく、疲れた人、傷ついた人、迷っている人にこそ近づかれる方として描かれています。このような人々に向けられたイエスのまなざしの中に、私たちは自分への励ましを見いだすのです。

聖書は遠い昔の宗教書ではなく、人間の苦しみや希望を深く見つめた書物です。そこには、「あなたは一人ではない」という力強いメッセージが流れているのです。(Y)